

日本史籍講読3－Ⅳ

科目ナンバリング JPH-406

選択必修 2単位

深谷 幸治

1. 授業の概要(ねらい)

後期のこの日本史籍講読3A-Ⅱにおいても、前期のそれと同様に、学生諸君はグループ別で史料読み・現代語訳・語句調べ・時代背景調査などを行い、それを授業毎に発表・報告してもらうことになる。形式は演習に準ずるものである。課題調査・整理・分析・発表という一連の作業を通じて、史学科学学生として必要な史料解読能力や報告のノウハウを獲得することを目的としている。

受講学生諸君は幾つかのグループを形成してもらい、そのそれぞれが提示された史料の読み方や現代語訳、また人名・地名・用語などの語句を調査し、史料の筆者や成立の時代背景などをも調べ、それをプリント(レジュメ)にして配布、内容を発表・報告してもらうことになる。後期に2回程度発表の順番が廻ってくるので、その心づもりをしておいてもらいたい。

2. 授業の到達目標

上のようなグループワークを通じ、さまざまな授業で提出が必要となるレポートや、学業の総仕上げとも言える卒業論文の作成に資する知識・分析力・構成力などを獲得すること。またそれを発表・報告することによりプレゼンテーション能力を養い、それが将来的に職業の場での実際的対応能力となることを目指す。

3. 成績評価の方法および基準

出席は成績評価の前提となる必要条件である。それを満たした上で、授業内での発表・報告への取り組み方やその内容、また最後の授業時間に実施する試験の解答内容を勘案して、成績を評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストは使用しない。必要な史料は、毎回担当教員がプリントを作成して配布する。

5. 準備学修の内容

前近代の史料は当然全て古文・漢文またはそれらの混交文によって書かれているので、高校で学んだ古文・漢文の基礎的知識を確認しておくことが必要になる。それらの教科書や参考書を取り寄せ、またそれに相当する書籍を図書館で借りて勉強しておくなどの準備が肝要。加えて史料に現れる漢字は、現在の当用漢字ではなく旧字体であるから、それらを漢和辞典などで確認しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

受講学生は積極的に発表・報告を行い、またその後のディスカッションに参加することが期待される。

また以下の授業内容はあくまで予定であり、状況によっては変更されることがあるので承知しておいてもらいたい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | 後期向けガイダンス。グループ分け、後期に使う史料などの説明。必要であれば古代・中世古文書学的な講義を行う。 |
| 【第2回】 | 古代・中世古文書学的な講義を実施する。 |
| 【第3回】 | グループ発表1回目、中世後期の記録類など。 |
| 【第4回】 | グループ発表2回目、中世後期の日記など。 |
| 【第5回】 | グループ発表3回目、中世後期の関東争乱関係など。 |
| 【第6回】 | グループ発表4回目、中世後期の寺院記録など。 |
| 【第7回】 | グループ発表5回目、中世後期の軍記物など。 |
| 【第8回】 | グループ発表6回目、中世後期の地域記録など。 |
| 【第9回】 | グループ発表7回目、中世後期の分国法など。 |
| 【第10回】 | グループ発表8回目、中世後期の戦国大名文書など。 |
| 【第11回】 | グループ発表9回目、中世後期の戦国大名文書など。 |
| 【第12回】 | グループ発表10回目、近世前期の軍記物など。 |
| 【第13回】 | グループ発表11回目、近世前期の日記など。 |
| 【第14回】 | グループ発表12回目、近世中期の紀行文など。 |
| 【第15回】 | 全体のまとめと総括、試験。 |